

平田市・大社町・斐川町

古代の光通信所 旅伏山

 平田市国富町
標高458mの山頂には、古代に烽火台が置かれ、昼は煙を炊き、夜は火を燃やして軍事上の急な通報を行った。中国山地の山並みをはじめ、大山、三瓶山、隠岐諸島、眼下には出雲平野が一望のもとに眺められる。『出雲国風土記』には「多夫志烽」とある。

<交通> 一畑電鉄旅伏駅から徒歩60分
<いにしえ> 5巻P17

天台宗の古刹、仏像と紅葉で有名 鰐淵寺

 平田市別所町
<指定> 国重文・彫刻・工芸・書跡・絵画、県・絵画ほか
594年に創建されたと伝えられる天台宗のお寺。根本堂、蔵王権現堂、摩陀羅社、山王七仏堂がある。壬辰銘の観音像をはじめ、国重文の毛利元就像など、各分野の文化財が多数ある。秋になると、参道の苔むした石段におおいがぶさるように茂る紅葉の木々が色づき、多くの人でにぎわう。

<交通> 一畑電鉄平田駅からバス25分鰐淵寺下車、徒歩10分
<連絡先> 0853-66-0250
<いにしえ> 5巻P7、6巻P36

心やすらぐ枯山水の名庭 康国寺

 平田市国富町
<指定> 県・古文書
鎌倉時代末期に創建された臨済宗のお寺。枯山水の庭園は、松江藩主・松平不昧公お抱えの庭師・玄丹が、江戸時代中期に3年の歳月をかけて作り上げたもの。広大な貯水池とそれに続く森林を借景にしたもので、簡素な中にも深い趣が感じられる。心安らぐ名庭園との誉れが高い。

<交通> 一畑電鉄旅伏駅から徒歩15分
<連絡先> 0853-62-2213

「目の薬師」は全国区
 平田市小境町
<指定> 県・古文書
1993年5月で創開1100年を迎えた、庶民信仰の厚い寺である。

平安時代にふもとに住む漁師が海中から引き上げた薬師を祀ったところ母の眼病が治ったことや、戦国時代に因幡の武士の子供が病氣から救われたことなどが伝えられている。目の病氣や子供のすこやかな成長にご利益のある寺として、全国の信仰を集めている。車でも行けるが、ふもとから長い石段を上ってみるのもお勧め。

<交通> 一畑電鉄一畑口駅からバス15分一畑薬師下車、徒歩5分
<連絡先> 0853-67-0111

格調高い本陣 平田市立日本陣記念館

 平田市平田町
江戸時代に松江藩の本陣として使われた屋敷の一部と庭を移築し、公開したもの。平田の豪農・豪商だった木佐家屋敷の、白壁と黒瓦が調和した外観は堂々として立派。屋敷内の枯山水庭園や藩主が休んだ上の間は、格調の高さを感じさせる。ほかに美術展示室、民芸展示室、茶室などがある。

<交通> 一畑電鉄平田駅から車10分
<連絡先> 0853-62-5090

真言宗の古寺 高野寺

 平田市野石谷町
<指定> 国重文・書跡
見掠山の頂上にあり、天長年間(824~834)に開かれたと伝わる真言宗のお寺。寺の宝として紙本墨書大般若経600巻が所蔵されている。この経巻は1288年から1292年まで5力年にわたって書き写されたもので、筆者は宋人・浄蓮である。

<交通> 一畑電鉄平田駅から車30分

平田を代表する後期古墳 山根垣古墳

 平田市西郷町
斜面に造られた横穴式石室を持つ方墳で、西向きに開いた入口をはいと、たくさんの石を組んで造られた部屋が見える。石の表面には加工時のノミ跡があり、古代の石造技術の高さがわかる。

<交通> 一畑電鉄平田駅から車10分
<いにしえ> 3巻P24

他の古墳とはひと味違う 山崎古墳

 平田市東福町
岡田町の奥屋敷古墳とともに、平田では珍しい石室を持つ古墳。墳丘はほとんど残ってあらず、石室の羨道部(入口から玄室に至るまでの道)も失われている。壊れた奥壁から中にはいと、本来の入口である玄門が一枚の石でふさがれていることがわかる。

<交通> 一畑電鉄平田駅から車10分
<いにしえ> 3巻P25

県内最古の家形石棺 上島古墳

 平田市国富町
<指定> 国・史跡
径15mの円墳で、一石をくり抜いて造った家形石棺を直接土中に納め、隣りには馬具などを納めた副葬品専用の竪穴式石室がある。山陰では出土例のまれな鈴鏡、鈴釧などを身につけた人骨が、ほぼ完全な姿で残されていた。出雲平野の後期古墳として、もっとも古いものと言われている。周辺には古墳が多く、古墳時代の1つのまとまりある地域として注目される。

<交通> 一畑電鉄旅伏駅から徒歩20分

「黄泉の穴」と言われる海食洞窟 猪目洞窟遺跡

 平田市猪目町
<指定> 国・史跡
海食洞窟を利用した遺跡で、出土品は弥生・古墳時代のものが多く、ほかに縄文土器などが少数ある。人骨は十数体発見された。とくに南西諸島の海底深くに生息するゴホウラという巻貝で作られた、貝輪をはめた人骨が興味深い。たき火の跡もあり、生活の場であった時代と、墓所であった時代があると考えられている。『出雲国風土記』で、「黄泉の坂」「黄泉の穴」と記載されている洞窟にあたと推定されているうちの一つ。

<交通> J R 出雲駅からバス1時間猪目前下車、徒歩5分
<いにしえ> 4巻P27

神殿風の駅舎 旧大社駅

 大社町荒木
神都大社町にふさわしい神殿風造りの駅舎は、全国でも珍しい神社様式を取り入れた格調のある木造建築。大社駅の開業は1912年6月で、この駅舎は1924年に改築された。外観以上に、内部も大正時代の雰囲気をよく残している。大社線が廃止された現在も観光施設として残されている。

<交通> 一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩10分

都大路に舞った、歌舞伎の創始者 出雲阿国の墓

 大社町杵築北
歌舞伎の創始者とされる出雲阿国は、出雲大社の鍛冶職・中村三右衛門の娘で、出雲大社の巫女であったと伝えられる。諸国勧進の旅に出、踊りを京都で上演して人気を博し、名が広まった。その阿国の墓が出雲大社の西の墓地の一角にある。

<交通> 出雲大社から徒歩5分

桃山の建築美が残る 日御碕神社

 大社町日御碕
<指定> 国宝(白糸威鏡)・国重文、県・工芸ほか
日御碕灯台手前の海岸にある壮大な神社。上の宮(神の宮)と下の宮(日沈宮)からなり、上の宮に素戔嗚命、下の宮に天照大神を祀る。徳川三代将軍家光の命令により、10年の歳月をかけて1644年に完成させた。社殿は桃山建築の美を残しており、当地方では珍しい権現造りである。

<交通> 出雲大社からバス25分
日御碕下車、徒歩2分

日本一の本殿 出雲大社

 大社町杵築東
<指定> 国宝(本殿、附内殿)・国重文・工芸ほか
杵築大社とも言われる。祭神は大國主神で、いわゆる出雲神話の「国譲り」によって成立したと伝えられている。福の神、縁結びの神様として全国的に親しまれている。本殿は大社造りの代表で、現在の高さは24m。年間72回におよぶ祭礼がある。拜殿右にある宝物殿には国宝の秋野鹿時絵手箱(レプリカ)や重文の銅戈など貴重な文化財が多数展示されており、

一見の価値あり。また境内からは縄文時代終りごろの土器などが出土していることは意外に知られていない。

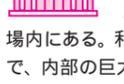
<交通> 一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩7分
<いにしえ> 6巻P10

黄泉の穴からの出土品 猪目洞窟遺物包含層出土品収蔵庫

 大社町杵築南
<指定> 県・考古資料
平田市の猪目洞窟遺跡の遺物を中心に展示。貝製の腕輪や舟の一部、多くの土器などがある。ふだんは鍵がかかっているため、隣りにある大社町教育委員会に頼んで開けてもらう。

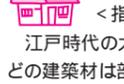
<交通> 一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩7分
<連絡先> 0853-53-4441(大社町教育委員会)

大社町の伝統行事を紹介 吉兆館

 大社町修理免
大鳥居の南西、ご縁広場内にある。和風の神社様式の建物で、内部の巨大ホールでは町内の祭りや生活・文化などをサークルビジョンで演出。奥の一室には原山遺跡の出土品も展示されている。

<交通> 一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩7分

全国有数の豪快堅牢な民家 藤間家住宅

 大社町杵築南
<指定> 県・建造物
江戸時代の大型民家建築で、柱などの建築材は部屋の広さ以上に太くて長い物を多用している。そのためか素朴な中にも風格を備え、豪商の家にふさわしい。本陣宿や西園寺公望が出雲に来たときの宿所になったこともあり、歴史上の舞台でもある。

<交通> 一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩10分

山陰で最古の弥生土器 原山遺跡

 大社町修理免
<指定> 町・考古資料(出土品)
原山と呼ばれる海岸砂丘に位置しており、山陰地方で最古の弥生土器が確認され注目を集めた。遺物は弥生土器、土師器、縄文土器、石鏃、骨角器などが見つかった。とくに弥生土器とともに朝鮮系無文土器が出土

していたことが指摘されており、山陰海岸沿いに展開する弥生文化を考えると見逃がせない、重要な遺跡。遺物の一部は吉兆館に展示してある。砂丘出土の土器はほとんど風化しないので、残り具合がよい。

<交通> 一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩5分
<いにしえ> 2巻P14、4巻P14

手軽に本格的登山ができる 弥山

 大社町下邇塔
島根半島西部山塊の西端にあり、大社町と平田市の境界にある、標高495mの山。『出雲国風土記』に「西の下に、謂はゆる所造天下大神の社坐す。」と記されたように、出雲大社の東にそびえる急な山で、出雲平野一円が眺望できる。頂上に弥山神社が祀られている。登山道があり、頂上までは1時間半。

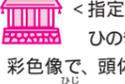
<交通> 一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩5分
<いにしえ> 5巻P10

天高く、最近になって発見 天寺平廃寺

 斐川町阿宮
ふだん人はいらない標高200mの山頂にあり、最近になってようやく発見された奈良時代の山岳寺院跡。寺城は東西65m、南北45mの広さを持つ。伽藍配置は、頂上平坦面のほぼ中央に2カ所の基壇(建物の基礎になる壇)があり、北側に一辺5.4mのお堂跡、南側に一辺7.8mの塔跡が併置している。非常に残りのよい寺跡で、柱を乗せた石がたくさん見つかり、その並び方を調べると建物の大きさや配置がわかる。

<交通> J R 出雲駅からバス30分阿宮公民館前下車、徒歩30分
<いにしえ> 6巻P37

一木造りの彩色像 莊厳寺

 斐川町上荘原
<指定> 県・彫刻
ひのきを使った一木造りの彩色像で、頭部部を一木から木取りし、右肘から上・左手先を別材で作り寄せ、膝前は横木一材を寄せている。背面の浅くけずった所に、「元徳21年(1320)」と書かれた墨書が見える。島根県内には年号のはいった仏像が少なく、貴重な作例である。

<交通> J R 荘原駅から車10分
<連絡先> 0853-72-1284

旧藩道の面影 出西・伊波野一里塚

 斐川町神守
<指定> 国・史跡
松江以西における旧藩道の一里塚で、道をはさんでほぼ東西に相對している。東塚のほうには、目通り(目の高さ)の幹圍4.2mと3.6mの松の木がある。現在は根元が残存するのみとなっている。

<交通> J R 直江駅から徒歩15分

子供たちに囲まれた古墳 神庭岩船山古墳

 斐川町神庭
<指定> 県・史跡
荒神谷遺跡から北にのびる丘陵の端、荘原小学校の片隅にある、復元全長約58mの前方後円墳。後円部の頂上に、砂岩をくり抜いて造られた舟形石棺の蓋石が残されている。壊れてはいるが、復元した長さは3mくらいになる大きなもので、この地の有力者の棺にふさわしい。現在はほとんど目にすることはないが、埴輪の破片も採取されている。

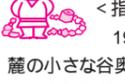
<交通> J R 荘原駅から徒歩20分
<いにしえ> 3巻P27

水田の中の古墳 小丸子山古墳

 斐川町学頭
神庭岩船山古墳から南方へ700mの水田の中にある、径約32m、高さ5mの町内最大の円墳。1909年ごろに一部発掘され、小石を敷きつめた所が2カ所見つかり、出土した直刀、甲、土器などはのちに埋め戻されたらしい。5世紀代の古墳と考えられる。近年教育委員会により墳丘の測量が行われ、2段に造られている可能性が指摘されている。

<交通> J R 荘原駅から徒歩25分
<いにしえ> 3巻P27

358本銅剣のナゾやいかに 神庭荒神谷遺跡

 斐川町神庭
<指定> 国・史跡
1984年7月仏經山の北麓の小さな谷奥から、それまでの全国

の出土総数約300本を越す、358本も神有月(10月)に全国の神々が帰途つづくの、斐川町の万九千神社だ。地元では、11月26日の神等去出の晩に外出すると神に触れて患うとか、神社をのぞくと神罰で死んでしまうと恐れ、家に籠もり静かに床に就く。かつては戸外の便所に行くとき様がぼうきで尻を撫でられるから、家の中で用を足したというユニークな伝承もある。Hな神様もいたもんだ?!

おたっきー情報

鰐淵寺の根本堂正面の額をよく見てみよう。菊の御紋章が見えるはず。ここからも鰐淵寺が天皇の勅願寺だったことがよくわかる。